

話題提供 2：棚橋尚子

「他教科教科書における漢字提示の実態

- 6年生の教科書における漢字提示実態調査を通して - 」

棚橋 群馬大学教育学部の棚橋です。私は今日語彙の問題をお話しすることになっておりますが、若干問題を狭く設定しまして、「他教科教科書における漢字提示の実態 6年生の教科書における漢字提示実態調査を通して」という表題でお話したいと思っております。語彙とってしまいますと、やや問題が大きくなってしまいうような気がしますが、とりあえず 10 分ほどこれから時間をいただきまして、他教科の教科書でどのように漢字が提示されているかをお話ししていきます。

「はじめに」の部分をご覧ください。この部分ではどうしてこのような問題を考えることになったのかといういきさつをお示ししています。少し読んでみます。「現行の小学校学習指導要領では、小学校で学習すべき漢字を、学年別配当漢字として 1,006 字定めている。したがって、該当学年より上に配当された漢字は、教科書にはひらがなで示されることになる。しかしながら、実際にはルビ付きの形で提示される場合も少なくない」。

表 1 なのですが、これは光村図書の 6 年生の国語科教科書におけるルビ付き漢字の全体を示したものです。便宜的に 3 つの項目に分類して表にしております。国語の場合、ルビを付ける割合に、ある程度の基準が設定されていることもあり、教科書にルビ付き漢字が多すぎるという印象は少ないと思います。

交ぜ書き

光村図書の場合、大きな特徴といたしまして、平仮名との交ぜ書きを避ける傾向があります。つまり、ある熟語を提示する場合、熟語の中のいずれかの文字が配当学年より上にあると、その漢字のみにルビを付け、熟語全体としては漢字表記をした形で提示しているものが多いわけです。交ぜ書きをしているものの例として「とつ然、砂ばく、りょう師、いく筋、すべり降りる、砂はま、りれき書、山すそ、真じゅ」などがあります。

交ぜ書き表記が避けられる理由ですが、やはり交ぜ書きとしての読みにくさ、わかりにくさということに尽きると思います。この度、行われております教育課程審議会の第 14 回議事録の中にもそのことを示すような発言があります。引用文を見ていただきたいと思っております。この議事録（資料 1）はインターネットより引き出したもので、どなたの発言かということはわかりませんが、この発言者は交ぜ書きのことを引用部分の 3 行目に示しましたように、「変な美しくない漢字の表記」と捉えて、6 行目にありますように「熟語としての意味がわかりにくい」とおっしゃっています。一般的な言語生活のみならず、学校教育の場面への言及もありまして、その次の行にありますように「学校で習っていない漢字もどんどん使う」ことを提案されています。

教科書に提出される漢字

このような考え方に対し、小学校学習漢字そのものが多すぎるという議論も実は少なくないわけです。ここでお示しする資料としては、あまり妥当ではないのかもしれませんが、たまたま手元に「ずっこけ 3 人組シリーズ」で子どもたちに大変人気のある作家の那須正幹氏の見解（資料 2）がありますので御紹介します。那須氏は単刀直入に「漢字が多すぎる」とおっしゃっています。那須氏の見解にもありますように、漢字の多さは学習意欲を減退させる一つの要因だということも考えられるわけです。私どもの調査・考察に先立って上越教育大学の研究プロジェクトでも他教科教科書の表現について研究していらっしゃいますが、そこには、3 ページに掲げたような問題が出されています（資料 3）。簡潔に申しますと、学年別の配当を無視した漢字の、学習者への負担ということがそれです。このような資料を検討してくると、他教科、ここで他教科といった場合国語科以外の教科という意味で使いたいのですけれども、他教科の教科書で漢字がどのように提示され、学習者にどのような影響を与えているのかという疑問が持ち上がります。そこで項目 2 以下に示します（資料 4）調査をいたしました。この調査はまだ行っている途中です。これも時間の関係で調査の方法等については省略いたしますが、調査した範囲でのお話を今からしていきたいと思います。

「調査結果からの指摘」についてですが、まず、傾向的に各教科共に言えることを 4 点にまとめました。まず、国語と違って他教科の場合は、該当学年以上に配当された漢字を含む語句が提示されると、ルビ付きか交ぜ書きかになります。当然、国語科の学習が済んでいるということが前提になるからです。次に、専門用語の中には、既習の漢字であってもルビが付くものがあります。それから、「青銅」「渡米」「養蚕」などの例を挙げましたが、他教科では国語科のように未習漢字にだけルビを付けるのではなく、その熟語全体にルビを付ける傾向があります。そしてルビ付きの同じ語句が複数回提示される場合、ルビ付けの規則は教科書個々によって異なります。

社会科の教科書の漢字

次に、教科別の漢字提示の特徴及びそれに基づいた考察を少しお話ししてみたいと思います。まず、社会科です。6 年の社会科は主に日本の歴史について学習をします。そういった内容上、地名、人名といった固有名詞が多く、それらには習った習わないに関わらず、すべてルビが付けられています。表 2 をご覧ください。かなり、難解な漢字が登場しています。専門用語として、「豪族」「前方後円墳」のような語句が出てきます。また、東京書籍では「木簡」が用いられる一方、日本文教出版はルビ付きで「荷札」とするなど専門用語の中には、より平易な語への言い換えができるものもあるだろうと思われます。また、専門的な用語の中でも「伊豆國加茂群三嶋の郷戸主占部久須理戸占部廣庭調堅魚拾壹斤」などの例は漢字が難しすぎ、わざわざ教科書に提示する必要もないのではないかと考えられます。

算数の教科書の漢字

次に算数に移ります。以前 4 年生の教科書を使って、やはり同じような漢字提示の調査をしたことがあります。その時、位取りに関わって兆以上の「ジョウ」「ガイ」「シ」などの大人でも読み書きできない漢字を提示していた教科書があって驚いたことがあります。このときは、ルビ付き漢字も少なくないという印象がありました。つまり、漢字という点では学習者にとって困難ではないかという問題点があったわけです。しかし、今回調査した 6 年生の教科書になりますと、困難な漢字の提示が非常に少ないという実態がありました。まだ 3 単元ほどしか調査が済んでおりませんので、こうだと断言はできないわけですが、表 3 に示したような数しかルビ付きの漢字が出てきていません。例えば、大日本図書であれば 3 単元で 7 語句ということになります。結果的には算数の教科書 6 年生における漢字はかなり平易だと言えらると思います。

理科の教科書の漢字

次に理科に参ります。理科の教科書については、ルビ付きの漢字の提示は単元によるばらつきがあります。表 4 を見ていただくと、地層に関わる単元にルビ付き漢字が頻出している印象を受けます。とは言え、そこにあります千葉とか茨城とか鹿児島などの地名は実はすべて写真資料に付けられたものです。従って、本文 理科の教科書で本文という言い方が妥当かどうかわかりませんが、単元の内容を説明した部分については、ルビ付き漢字の提示はさほど多いとは言えないと思います。むしろ、逆にルビが少なくて問題だなと感じるぐらいで、例えば「過酸化水素水」「二酸化マンガン」「化石燃料」「二酸化炭素」「塩酸」など 6 年より下の学年に配当された漢字が専門用語の中に入ってくると、習ったということでルビがありません。これらなどはかなり子どもたちに抵抗があり、少し問題ではないかと感じます。

家庭科の教科書の漢字

それから、音楽、図工は飛ばしまして、家庭科を見ていきたいと思います。家庭科の場合は、多くの教科の教科書が専門的な用語をルビ付き漢字で提示していたのとは異なり、その漢字を習っているかいないかということで、漢字として提示するかどうかを決めているという印象を受けました。つまり、他の教科書と比べると熟語の交ぜ書きが非常に多くなっていることがわかります。表 5 をざっと見ていただいてもそれはわかりいただけるのではないかと思います。その理由なのですが、家庭科で使われる語彙が大変日常的であるため、特に漢字を使って意味を表さなくても、その音からだけで学習者その語句を理解できたり、イメージできたりするからだと推測できます。

まとめと今後の課題

以上のような実態調査を踏まえて、少しだけまとめをさせていただきます。項目 4 の 2

行目後半を見ていただけますでしょうか。他教科教科書においては日常性に乏しい専門的な用語が、ルビ付きの漢字で提示されることが多いようでした。これは、漢字の表意性を計算してのことだと思いますが、専門用語こそが、学習者にとって理解が困難であることを考えると、たとえルビ付きだとはいえ、学習の際に抵抗感の強まる漢字で提示することばかりがよいかどうかは検討の余地があると思われます。今後は、この調査を進める一方で、学習者へのアンケート調査を行っていきたいと考えております。以上でお話し終わります。

高木 どうもありがとうございました。漢字の大規模な調査をしていただいたようですけれども、また、あとでご意見いただきたいと思います。続きまして、岩手大学の上谷さんよろしく申し上げます。

表1 光村図書6年国語教科書におけるルビ付きの漢字の全体

作者等に関する固有名詞	略
登場人物等の固有名詞 (下線のある文字は、小学校学習漢字以外の常用漢字および表外漢字、かっこ内はルビなし)	綾子 哲夫 千代 一夫 岡本 魚進 米田 堀 祐子 千枝 子 瑞枝 喜久 草之丞 正彦 竜頭 文一 尾瀬 群馬 片 品 大清水 三平峠 平野長靖 長蔵 石清水 鳩待 富士見 沼山 (尾瀬)ヶ(原) 長英 檜枝岐 靖子 沼田 足尾 又三郎 太一 与吉 江戸 長崎
小学校学習漢字以外の常用漢字を持つ語句(かっこ内はルビなし)	杉 玄(米) (絶)滅 繁(栄) 恒(温動物) 棧(橋) 甲(板) (防 空頭)巾 愉(快) 潜(水)艦 噴(水) 爆(発) 巨(大) 理(屈) 煮える (日本国籍 朗(読) (要)旨 熟語 幻(灯) (天)上 尾 (鉄)砲だま (水)唱 (金)剛(石) (三十五)歳 沼 (自然 破)壊 (冬)眠 雄(大) 汚(染) 環(境)庁 瀬 尾 甲(板) 屈 (強) 感(触) 壮(大) 巨(大) 蘭(学者) 舞(台) 或る (一生) 懸(命)
音訓が中学校・高等学校に送られている字のある語句(同上)	径木 胸元 (若い)衆 極(楽) (最)期 対 鋼 (金雲)母 競 う 発(足) 産声
古典单元にかかわる語句	石走る 垂水 出づる 来ぬ 奈良 万葉集 平安 古今 鎌 倉 牧 一目 小さき すみれ草 江戸 筑波 狂言 附子 太郎冠者 二郎冠者 後見 室町 儀 心得ました 滅却 牧 谿和尚 観音 台天目 落涙 頑固 波留 奈都 安吉 布由 万葉 平安
その他(かっこ内はルビなし)	熟語 俳(句) 上〔かみ、2回〕 遠眼鏡 一木一草 大魚 (木もれ)陽

資料1 教育課程審議会第14回総会議事録(無記名)

…社会に出てからも、一般の新聞とかテレビなどを見ておきますと、言葉について非常に敏感すぎる部分と鈍感な部分があると思うのです。つまり、教育の中で教わっていない漢字は使わないということで、変な美しくない漢字の表現があります。ある文字を平仮名にして、ある文字を漢字にする。書いてみれば簡単な文字なのに、なぜか義務教育で習っていない漢字は使ってはいけないような表現をしている新聞もあります。そうしますと、平仮名で表現すると、熟語としての意味がわかりにくくなる場合が多いのです。わからない漢字、学校で習っていないもどんどん使ってしまうと、そのかわりルビを振れば良いと思うのです。気になる言葉があればすぐ辞書を引くという癖をつけることが大切です。今、いろいろな簡単な辞書も出ておりますし、分厚いページを開かなくても電子辞書もありますし、知らない言葉にぶつかったときに、それを何だろうなと好奇心を持って前へ進むような気持ちを助けてやるような教育ができればいいと思うのです。

だから、教科書の中でも不自然に平仮名を使うのではなくて、思い切って漢字、何年生はここまでとかいう枠だとどうしても構成しきれない文章があると思います。そうすると、ルビを振って、とりあえずは言葉として耳にならしてしまうことも大切だと思うのです。がんじがらめの漢字教育というのが、ずいぶん、文章を具合の悪い、不自由なものにさせている気がします。

表2 社会科教科書における固有名詞（初出のみ）

東京書籍	日本文教出版
野田 小浜 福井 縄文 江戸 奈良 平安 鎌倉 室町 安土桃山 太平洋 明治 鳥浜 三方 福岡 板付 静岡 登呂 中国 朝鮮半島 佐賀 吉野ヶ里 弥生 沖縄 卑弥呼 邪馬台国 長野 更埴 大和朝廷 九州 東北 大仙 仁 徳陵 宮城 福島 栃木 群馬 更埴 千葉 茨城 埼玉 山梨 愛知 三重 香川 吉備 宮崎 筑紫 岐阜 志賀 京都 大阪 兵庫 岡山 山口 獲加多 支 斬鬼宮 出雲 古事記 日本書紀 聖武天皇 平城京 東大寺 飛鳥 聖徳 太子 小野妹子 中大兄皇子 天智 中 臣鎌足 藤原 大化の改新 隋 蘇我 近江 法隆寺 昭和 陸奥 正倉院 長 安 揚州 新羅 長江 揚子江 坊津 難波 鑑真 鹿兒島 山上憶良 伊豆 加茂 三嶋の郷 占部久須里戸 占部廣 庭	新潟 洋子 笹山遺跡 十日町 関川 渡 辺 江戸 万代 鎌倉 明治 昭和 弥生 飛鳥 奈良 平安 室町 安土桃山 大阪 堺 福井 鳥浜 三方 静岡 登呂 東京 文京 卑弥呼 邪馬台国 魏 志賀島 大 山 仁徳天皇 大和政権 江田船山古墳 稲荷山古墳 埼玉 雄略天皇 朝鮮 孔子 京子 雄二 平城京 太宰府 多賀城 常 陸国 茨城 聖徳太子 蘇我 推古天皇 法隆寺 斑鳩 小野妹子 中大兄皇子 中 臣鎌足 大化 藤原 聖武天皇 唐 朱雀 大路 行基 東大寺 正倉院 渤海 新羅 黄河 長安 長江 博多 福岡 難波 平 安京

表3 算数教科書におけるルビ付き漢字（初出のみ）

大日本図書	東京出版
割合 対 比 値 果汁 垂直 冊	縦 割合 明さん 対 比 値 清 棒 健太

表4 理科教科書におけるルビ付き漢字（初出のみ、かっこ内はルビなし）

大日本図書	東京図書
燃烧	
石灰水 元せん 針金	割合 石灰水 針金 灰 マッチ棒 資源
植物	
根元 呼ぶ 口元 穴 吸う (食)紅 水蒸気	1株 水蒸気
天体	
七夕 星座 牽牛 結こん 天の川 時刻 板〔ばん〕 方位磁石 上り 北斗七星	座 星座 時刻 (方位)磁針 針 簡易
自由研究	
	呼吸 骨 水溶液 枚 蒸発 窓 危険 木炭 紅茶
地層	
千葉 茨城 笠間 鹿兒島 始良郡 層 夷隅郡 静岡 磐田 天竜川 角 鹿兒 島湾 さ岩 高知県 土佐清水市 山梨 県 南都留郡 田方郡 長野県 木曾郡 神奈川 横須賀 熊本 八代 高地 土 佐清水 袖ヶ浦 恐竜 福井県 勝山市	群馬 赤城 砂 栃木 小山 男鹿市 三原 層 地層 服装 世田谷 茨城 千葉 印西 屏風(が浦) 室蘭 若山 西牟婁 阿武 島根 鹿兒島 桜島 宮城 蔵王 釜 函館 静岡 御殿場 鹿兒島 桜島 愛知 小牧 青梅 若山 砂(岩) 掛川 沖縄 名護

三宅村 熊本県阿蘇山 鳥居 栃木県 中禅寺湖 長崎県 雲仙・普賢岳	福井 岐阜 大島 三原 兵庫 玄武洞 昇仙峡 玄武岩 (西)之(島) 名古屋 八丈(島) 小笠原諸島 父(島) 母(島) 花こう(岩) 香川 普通寺
動物	
人〔かたかなルビ〕 呼吸 心臓 皮ふ 吸収 糖 卵巣 背中 腹 犬歯 骨格 鉛筆	疑問 肺 胸 口 心臓 背骨 骨ばん 内臓 吸収 心臓
電流	
鉄片	磁石 電磁石
環境	
宇宙 濤沸湖 汐川干潟 米沢市 舳倉島	網走 砂ばく 姿 白神 湿原 湿地 釧路 支柱 毛利

表5 家庭科教科書における教科に固有の語句(初出のみ、下線はルビ付き)

開隆洞	東京書籍
型紙 ぬい目 色系 染料 寸法 まち針 たち切り線 合わせ 返しぬい ゴム通し 洗たく 混ぼう ミシン用 ミシン糸 食品 白米 げん米 ぬか層 はい芽無機質 炭水 化物 たんぱく質 はい乳ぶた肉 吸水 消化 蒸す 火かげん 強火 中火 せん切 り たんざく切り こぐち切り ななめ切 さいの目切り 食器 茶わん こんだて表 基そ食品群 朝食 栄養素 焼きそば 牛乳 福しんづけ 肉じゃが 青菜 肉づめ 生野 菜 する物 目玉焼き 塩焼き 焼きのり 三食野菜 油いため 粉ふきいも バター焼 き 小魚 海そう 衣服 住まい 手入れ き 制服 価格 塩素系漂白ざい また上 ぬい始め ぬい終わり 着ごち 洗ざい 品質表示 弱アルカリ性 正味量 毛 合成 洗ざい 手あれ 標準使用量 はい水 電気 洗たく機洗い 取り扱い絵表示 計量スプ ーン 物ほしざお 小物ほし 身じたく 手洗い 手もみ洗い はけ洗い だっ水時間 固形石けん アース線 家族	たち方 まち針 型紙 糸はし ひも通し カタン糸 色系 ししゅう糸 ぬい方 二 度ぬい 衣服 食品 白米 玄米 ぬか層 胚 胚芽米 たんぱく質 無機質 ぶた肉 塩 吸水 強火 中火 弱火 小3尾 い ちょう切り たんざく切り こぐち切り 茶わん 塩水 塩ざけ 栄養素 きそ食品 群 買い物予算 焼き肉 肉じゃが 小魚 野菜 主食 栄養分 野菜 乳製品 果物 こく類 いも類 パン粉 小麦粉 油類 料理 衛生 日よけ 直射日光 風通し 住まう せん風機 布地 着方 洗たく 吸収性 通気性 冷房 温度 着心地 清 潔 下着 上着 洗剤 取りあつかい方 品質表示 綿 毛 電気洗たく機洗い か け方 あて布 中温 しぼり方 ほし方 合成洗剤 はい水 洗たく物 洗たく用具 計量スプーン 物ほし 小物ほし器 つか み洗い 取りこむ ほころび直し 家庭 家族 取りあつかい絵表示

資料2 那須正幹氏の見解

...もっとやっぱりこの子どもたちの判断力を、教祖様がいなくても自分たちで生きていく、そういう力を育てる教育をしなくちゃならないのに、今の学校では漢字が多すぎるとかね。特に、僕が感じてるのはさっきの話なんですけど、今千六字ですか、小学生で。あんなに漢字を教える必要があるのかそういうまあ、自分の作品以外のことに対する不満を非常に僕は今持っております。(『実践国語研究』172、1997、明治図書)

資料3 上越教育大学研究プロジェクトの調査報告

<算数科>

・単語として専門用語になるので仕方がないと思うのですが、国語で習っていない漢字がたくさん出てくるのには、とまどいを感じる。子どもは、問題文が読めなくてやる気をなくすことがよくある。

<社会科>

・社会科の専門用語だから仕方がないのかもしれないが、特に資料で難しい語句や漢字が使われている。(『小学校教科書の学習内容に関する用語・用法などの言語表現等に関する調査研究』(1994年、代表者：安西迪夫))

資料4 調査の企画と内容

(1) 調査組織

本調査は、棚橋を代表者に、群馬大学大学院教育研究科の1年生をスタッフとして取り組むこととした。メンバーは以下のとおりである。

社会科担当	飯沼良夫	算数科担当	赤松知栄子	理科担当	木村友美
音楽科担当	武井真一	図工科担当	董 萍	家庭科担当	杉山伸子

(2) 調査対象

本調査の調査対象は、平成9年度に使用されている6年生の小学校教科書の中から選択した、以下の出版社の教科書における、本文、及び、学習の手引き、資料等におけるすべての記述とした。なお、教科書の選択は、スタッフである院生の必要性を勘案して、群馬県内で採択されているものを中心とした。

社会科	東京図書	日本文教出版
算数科	大日本図書	東京図書
理科	大日本図書	東京図書
音楽科	教育出版	教育芸術社
図工科	日本文教出版(1社のみ)	
家庭科	東京図書	開隆洞

(3) 調査方法

現段階では、漢字表記を含んだ語句を拾い上げ、問題点を考察している状況である。